

プレス技術

- 特集** 競争力を向上するプレス/板金加工の生産管理手法
- 巻頭インタビュー** (株)放電精密加工研究所 取締役 村田 力氏 高精度サーボ技術でマルチマテリアル化のニーズに応える
- 好評連載** プレス作業を改善する電気/空圧制御の基礎知識
- 特別誌上展** 2019 国際ロボット展

プレス関連自動化・省力化装置

JUSTvision



MYTEL

第35回竹内記念・ニュー型研サロン 後継者育成と技術領域の拡大に焦点

竹内型材研究所

(株)竹内型材研究所(神奈川県伊勢原市:内山真司社長:0463-93-7771)は11月16日、「第35回竹内記念・ニュー型研サロン」を日立金属・高輪和彊館(東京都港区)で開催した。同サロンは竹内型材研究所が主催していた型材研究会から続く親睦団体の勉強会。今回は古賀金属工業(株)の古賀雄大取締役副社長と、アプト技研の大島清次郎代表がそれぞれ講演を行なった。

まずは古賀副社長が「自分がやらねば誰がやる!他責思考から自責思考へ〜経営後継者研修を受講して〜」と題し講演。中小企業大学校東京校にて開催された経営後継者研修を修了。その結果えた成果や気づきを発表した。研修では自社の分析、リスクマネジメント分析、財務分析など後継者として必要な会社経営・組織運営を学ぶ。その中で古賀副社長は自社の強みを金型設計製作からFA機器設計製作、設備修理までを行う「一貫生産体制」とし、また自社のビジョンを「短期的課題」「中期的課題」「将来ビジョン」に分け、中でも「短期的課題」への取り組みとして「収益性の改善」「経営管理及び環境整備」「人材育成」「既存顧客との関係強化」をあげ、後継者として現時点から進めている具体的な活動内容なども紹介した。

大島氏は「常識」や「あたりまえ」を疑う〜常識の殻を破って新しい領域を広げる」と題して講演。まず、非正規雇用者の増加などによる生産年齢人口の減少などをあげ、労働者の不足または



熟練技術者の育成が難しいなどのプレス・金型業界が置かれている困難な状況を解説。その上で、各企業が今持つ技術を見返し、また積極的に技術の情報を取得することで自らの技術領域を広げるべきだと指摘。その上で、打ち抜きや絞り、板鍛造などにおける画期的な加工事例を解説。常に問題意識を持ち、技術を進歩させるべく行動する重要性を説いた。



大島代表



古賀副社長